

# 文書が映す安曇野の文化⑦ 豊科町の賑わい

個人のお宅には、たくさんの写真アルバムが残されています。しかし、それらの写真は現在のデジタル化などによって、場所をとる困りものともなっているのです。特に代替わりをしたり自分たちの終活をしたい、というようなときには捨てるには惜しい、何とか活用できないかと博物館に持ち込まれます。由緒が分かり、一枚ずつに対して聞き取りのできるものはなるべくいただくようになっています。

豊科商店街のほぼ中央にあった酒井家(酒井洋品店)の写真もその一つです。国道147号と豊科駅に通ずる駅前通りが交差する「豊科駅入口」付近 いわゆる豊科銀座を中心に商店が南北へと広がっていました。国道147号の両側には、呉服屋・洋品店・魚屋・肉屋・菓子屋・お茶屋・食堂・雑貨屋・タクシー営業所などさまざまな職種の店が並び、近在の人々が訪れて日々賑わっていたといいます。酒井屋さんもその中の一軒。

また、かつては、安曇野一帯では蚕種屋を営む家が多く、蚕種を買いつけるために訪れる仲買人などを泊める旅館、もてなすための料理屋なども、豊科駅から147号までの間の裏通りに軒を連ねていたといいます。穂高や明科もそうだったように、豊科にも20軒近くの芸者置屋さんがあり、それぞれに数人の芸子を抱えていました。夜になると街のあちこちの料理屋さんから三味線や太鼓の音が聞こえ、人々のさんざめきが絶えませんでした。写真は往時の酒井屋洋品店付近の賑わいです。

まだ、大型店・量販店ができる以前昭和50年代ごろまでのお話です。



現在の成相公園前の様子

**■安曇野市文書館 案内図■**

**利用案内**  
 【開館時間】 午前9時～午後5時  
 【休館日】 土曜日、祝日、12月29日から1月3日  
 【駐車場】 約50台(堀金支所・堀金公民館・堀金図書館共用)

**ACCESS**  
 長野自動車道安曇野ICから約5km、自動車約10分  
 JR大糸線豊科駅から約3km、自動車約6分

**編集後記** 令和2年度末の全国市区町村公文書館数は33(国立公文書館HP)です。長野県は8を数えます。実に1/4を占めていることとなります。「出来事を記録し、残してきた資料」を地域住民の貴重な財産として後世につなげていきたい、つなげなければならないという意味の表れだと思います。記録を守り、伝える担い手を育てることは文書館の大きな使命と感じています。古文書初級講座や古文書研究発表会の企画はそのひとつです。



安曇野市文書館だより第7号 編集・発行 安曇野市文書館 発行日：令和3年9月10日発行  
〒399-8211 長野県安曇野市烏川2753番地1 TEL.0263-71-5123 FAX.0263-71-5127  
E-MAIL bunshokan@city.azumino.nagano.jp URL www.city.azumino.nagano.jp/site/bunsho/

# 安曇野市 文書館だより 第7号



## 後期企画展

### 「江戸時代を生きる～出来事を記録する古文書～」

一般的に「古文書」というと、有名な武将が書いた書状や、掛軸に整えられて床の間に飾られるような特別なものを思い浮かべるかもしれませんが、意外と「古文書」は私たちの身近にあります。旧家の蔵や仏壇の中、屋根裏や物置の中、普段は特段気に掛けることのない荷物の中に「古文書」は隠れています。



市内旧家ででの古文書調査の様子(2010年)

安曇野市では2009(平成21)年から市内に残る古文書の調査を行ってきました。調査を行った家は十数軒となり、古文書目録も18冊になりました。そこで調べられた古文書の多くは、江戸時代に生きた市井の人々の暮らしが記録されたものです。

これまでの調査活動の中で、新たな発見もありました。穂高神社御船祭りの最古の記録や、十返舎一九の礼状など市内の歴史を代表する古文書です。

この企画展では、10年余りの調査成果を凝縮し、江戸時代の人々が日々の暮らしの中で記録してきた古文書を紹介します。現在の暮らしと共通する部分、異なる部分を考えながら記録を残すことの大切さを考えたいと思います。

期間：令和3年9月5日(日)～12月28日(火) (9月13日(月)～15日(水)は燻蒸のため臨時休館)

会場：安曇野市文書館1階閲覧コーナー

### 講演企画「古文書研究発表会」

市内で活動する古文書研究団体の方々に活動報告と研究成果を発表していただきます。

- 【日時】 令和3年10月3日(日) 13:30～15:00
- 【会場】 安曇野市堀金公民館会議室1(堀金支所3階) → 変更しました 安曇野市堀金公民館講堂(文書館隣り)
- 【発表団体】 穂高古文書勉強会、下鳥羽の古文書を読む会、豊科郷土博物館友の会郷土史部
- 【定員】 50名
- 【事前申込】 9月21日(火)より申込受付開始

### 関連講座1

- 「江戸時代の家作り—家作史料にみる安曇野の伝統民家—」
- 【日時】 令和3年10月24日(日) 13:30～15:00
- 【講師】 梅干野 成央氏(信州大学学術研究院工学系准教授)
- 【定員】 30名
- 【事前申込】 9月27日(月)より申込受付開始

### 関連講座2

- 「絵図の読み方・調べ方」
- 【日時】 令和3年11月7日(日) 13:30～15:00
- 【講師】 青木 弥保(安曇野市文書館職員)
- 【定員】 30名
- 【事前申込】 10月25日(月)より申込受付開始

\*両講座共に会場：安曇野市堀金公民館講堂

参加費  
無料  
事前申込  
必要



### 古文書初級講座を開催しました

5月17日(月)～7月5(月)に隔週全5回の日程で「ここから始める古文書解読!「読んでみよう、くずし字」講座」を開催しました。受講者は14名。地域資料調査員と文書館職員が講師を務めました。受講者の方々は初めて触れるくずし字に戸惑いながらも、約半数の方は毎回課される宿題を提出されていました。講座ではくずし字を現在の漢字に置き換える作業のほかに、古文書に振り仮名を振ることに重点を置きました。古文書の中には現在も使われる漢字が登場しますが、読み方や意味が違うものがあります。その漢字を辞書で調べ、文章の意味を解釈していくためには、読み方も覚えていく必要があります。

受講者からは以下のような感想をいただきました。

- 自由に使える時間が持てるようになり参加しました。古文書を知る、感じることを教えていただき、昔の人の生活、生き方を実感することが出来ました。訳してもらい細かい当時の様子の説明がよかったです。
- 博物館めぐりをする際に古文書を読んでみたい、興味を持ったが、今回の講座で一步踏み出せた。



講座の様子(第1回2021年5月17日)

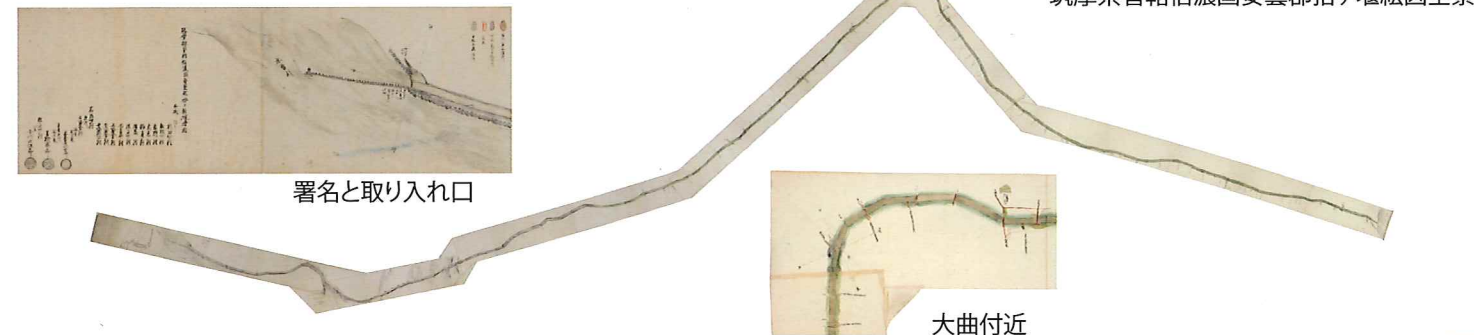
古文書の解読は一朝一夕で習得できるものではありません。講座をきっかけとして学びを深めてほしいと思います。講座に使用したテキストは500円で販売しています。令和4年度も同様の講座を準備していきます。

### 発見!拾ヶ堰の絵図

本年4月に安曇野市穂高柏原の方から、「家の中から拾ヶ堰絵図と書かれた巻物が出てきた。」という相談を受けました。巻物は上下が約25cm、直径が約5cmのとてもコンパクトな形状をしていました。しかし広げると、全長約12mととても大きく、単なる直線ではなく、拾ヶ堰の流路のように紙が貼り継ぎされていました。描かれた年代は絵図に「筑摩県管轄」とあることから、1870年代のものと考えられます。これまでも拾ヶ堰が描かれた絵図は発見されていましたが、全体の構造を詳細に描いたものはなく、所有者の意向もあり、安曇野市文書館へ寄贈となりました。

5月28日(金)～30日(日)には豊科郷土博物館で特別公開展示を行いました。期間中は延べ280名が見学に訪れました。拾ヶ堰の関心の高さに改めて気付かされる機会となりました。

絵図はその後、専門業者にデジタル画像での撮影を依頼し、完成品が納入されています。現在は、文書館内のパソコンの画面で撮影データを見ることができます。大変貴重な資料ですので、保管に注意を払いながら、今後の講座などに活用していきたいと思えます。



### 『信濃不二』から見た安曇野の近代

雑誌『信濃不二』は戦時中を除き、1911(明治44)年12月から1954(昭和29)年8月まで会田血涙(本名:会田貢)により発行された月刊誌です。『南安曇郡誌』をはじめ多くの自治体誌に近代を知る資料として取り上げられています。この雑誌には4点の特色があります。

#### ①特集号

- 養蚕業(大正期)・登山(大正期)・衛生(大正期)
- 南安曇農学校落成(大正11)・豊科高等女学校落成(大正14)
- 飯沼飛行士(昭和12)・戦意高揚 等

特に養蚕については、毎年2～3号の特集号を組んでいます。桑の奨励品種や接木、経済的な飼育方法、繭に被害を与える鼠の駆除方法など、多岐にわたっています。

#### ②出来事の記録

「過去帳」と題したページを設け、南安曇郡下で開催された諸行事や出来事が月毎に掲載されています。

#### ③広告

当時の経済、産業、商業活動の状況が記されています。

大正15年発行の『信濃不二』は定価が1部15銭5厘となっています。当時の白米10Kgが3円20銭(三菱UFJ資料)であったことから換算すると200円程度になります。比較的安価な月刊誌だと考えられます。その理由は、広告料です。毎回40社程度の掲載があります。会田氏は経営手腕にも長けていたと思われます。

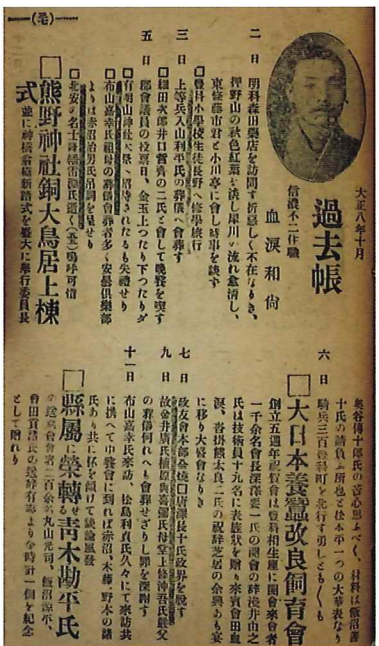
#### ④文化

俳句、短歌、漢詩、詩吟などの文芸欄があります。

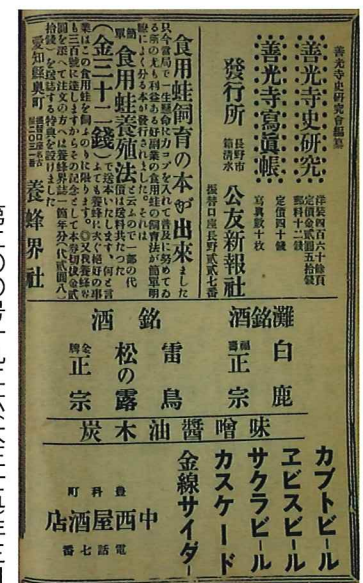
『信濃不二』は総号数642、特別号を加えれば、700に近い数になります。1951(昭和26)年1月に会田貢氏が亡くなった後、妻信乃子氏によって3年間継続されました。大正期の旧町村の沿革や人物誌なども特集されています。文書館には、他に「会田血涙資料」625点が収蔵されています。会田氏が収集した書籍などです。すべて閲覧が可能です。



第34号1937(昭和12)年7月



第一〇四号一九二八年二月



第二〇〇号一九二六年三月